

様式2 令和5年度 清瀬市立清瀬第六小学校 学校評価表					
学校教育目標			育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動		
よく考えずんで行動する子供 仲良く力を合わせる子供 健康で心豊かな子供			○「人権尊重の精神」を基調とした思考・判断・実践する教育・「自他のよさ」に気付き、人格を大切にできる教育		
目指す学校像(ビジョン)			・社会に存在する差別に気付き、許さず、解消しようとする教育 ・児童自らの思考を認識させる教育 ・体力を身体的・精神的、行動・防衛に分類して系統的に行う教育 ・地域の人々と積極的に関わる教育		
【目指す学校像】 自己肯定感を高めさせ、次代を担う子供を育てている学校			○学びを追求し知的欲求が旺盛な教育		
【目指す児童・生徒像】 自分を見つめ、自分を肯定的に考えることのできる子供			○体力を分析的にとらえた体力向上の教育		
【目指す教師像】 常に子供を主語において、指導を行う教師			○将来にわたって地域に貢献する教育		
前年度までの学校経営上の成果と課題			○特別支援について、教員が共通理解のもと日々の教育活動で児童が自ら課題解決の手段を選択できるようにする手法を取り入れるようになってきた。 ●自己肯定感を十分に高めることができないことが一因となり、他者を卑下したり登校渋りになったりする児童がいる。		
柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		取組指標	成果指標	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	特別支援教育の視点を取り入れ、児童一人一人が自らの学び方を選択する授業を行う。	3	3	日常的に行っている管理職による校内巡回の際に、授業の様子を観察することで児童一人一人の凸凹について把握するように努めた。また、校内支援委員会等で把握した児童の実態に基づいた支援の手立てを講じることもできた。しかし、肝心な全教職員での共有が確実にできているか確認する手立てを講じていない。今後の課題である。	特別支援教育の視点は、どのこどもにも必要な視点であり、今後も六小の教育の特色として力をいれていくべきである。
	既習の学習内容を確認した上で新たな内容の指導を行うとともに、ICT機器の活用も図りながら家庭に働きかけ、家庭学習の充実も図る。	2	3	家庭学習についてICT機器を活用した課題の提示等を多くの学級で取入れ、欠席した児童に対しても現在の学習内容の情報を伝える等家庭での学習について啓発は徐々にではあるが進んでいる。反面、保護者の中には今まで通り連絡帳や紙ベースでの宿題等を求める声も多い。今後、教職員の働き方改革とのバランスも考えながら工夫していく必要がある。	ICT活用を積極的に進められ、授業ツールとしてだけでなく、欠席者フォロー、宿題にも幅広く活用されている。
豊かな心の育成	地域社会と連携し成功体験を多くさせる中で、児童が自己の特性に気付き、それを生かそうとすることができ活動を展開する。	3	3	学校運営委員会やPTA行事が行われる際には、必ず参加を促す言葉かけを行ってきた。また、行事の中でも参加した児童に対し教職員が日常の学校生活では見られない姿を探し声をかけるようにしてきた。児童は地域行事の中で新たな自分を発見しているはずなのだが、指導者が見取り児童に自覚させる十分な言葉かけをするまでにはいっていない。	学校運営委員会やPTAによる行事は、保護者や地域の協力で運営され、あらゆるツールを通してよく周知されている。
	地域社会も含め多くの人の関わりの中で、お互いに見守られ、見守る中で大切にされ生活していることが実感できる活動を展開する。	4	3	学校運営委員会開催日を土曜授業日や学校行事のある日に設定し、児童の様子を見ていただくと同時に、可能な限り下校時に見守っていただけるようにした。しかし、児童が地域の高齢者等を下校時や放課後に気を止めてかわかる等にはいたっていない。児童や地域の方々が互いに気軽に声をかけあえるような環境をつくっていく必要がある。	CSの行事に教職員の参加が多く、参加すること、楽しむこと、地域交流を子供たちが見て学ぶよいモデルとなっている。目の前の一番身近な先生の姿が最高の教材である。
健やかな体の育成	東京都統一体力テストに準じてテスト結果を分析するとともに、体育部を中心とした教員による模範授業を行い改善した授業を展開する。	3	2	東京都統一体力テストにの結果を体育部を中心に児童の体力の傾向を把握するようにした。新型コロナウイルスの流行等他校でも同様の条件であるにもかかわらず、持久力が全体として低い傾向にある。他校や他地区の取り組み等の情報を収集しながら、持久力向上の手立てを講じる必要がある。	体力テストの分析など、教職員間での共有がされている。学校では十分な取り組みがされていると思われるので、家庭への周知で協力を仰ぎたい。
	栄養士による食育の視点から健康を考えさせる学習活動を展開するとともに、生活点検カード等により常に自らの生活をふりかえさせる。	3	3	栄養士が中心となり、地域で取れるトウモロコシ等の作物や企業の協力を得て日本食の出汁等など全学年で「食」に関わる授業を行った。全児童が食について意識するようになってきたが、日常の生活の中で生かすところまでいたっていない児童も多い。今後「食」について保護者にも啓発する機会を設定していく必要がある。	地域の作物の活用、食育への取り組みがなされている。お手紙などによる家庭への啓発もなされている。保護者向けの講話などがあるとさらによい。
特別支援教育の充実	全教科・領域を通して、自然の摂理・偉人の生き方について取り上げ、個性を生かした生き方を考えさせる。	4	4	昨年度に引き続き「道德の時間」や「社会科」「生活科」「理科」を中心に人の生き方や自然の不思議等について考えさせる活動を展開したが、自己肯定感のあまり高くない児童や自分自身に興味のない児童が自分のあり方について考えるまでにはいたらなかった。児童が自らのあり方(こういう自分になりたて)をもっているよう保護者とも連携をしていく必要がある。	自分は自分でいいんだ、と思えるような自己肯定感は、子供の頃は周りの大人の声掛けの影響が大きいでしょう。家庭・地域との連携で注力していきたいことの一つだと
	教員一人一人が、発達や障害について理解し、その上で児童一人一人の特性に応じた指導を行う。	4	3	校内研修・校内研究等で全教員で発達や障害について理解を深めることができた。多くの授業で児童一人一人の発達の特性に応じた学習課題の解決方法を選択できるように授業展開を行ってきた。今後、児童がより一層自分の特性を見つめることができるよう思考の機会を多くしていく。そのために、思考の際の言語力を来年度は高めていく。	言語力を高める、とてもよいことだと思います。選択肢を多くもつために、思考を整理するためにも言語化することで外在化できるのでぜひ進めて欲しい。
本校の特色	発達段階に応じて、地域や本校の自然物や人物について関連した課題を設定し、地域社会に関わる活動を行う。	4	4	学校運営協議会で自分たちが地域のためにできることを伝えるために、全学級で何ができているかを考えることができた。今年度は1学期から代表委員が中心となって、全学級で「自分たちが地域でできること」を考え、地域と繋がる手立てとして地域での「あいさつ運動」を企画した。今後、実施するとともにその成果を検証していきたい。	地域との連携はうまくいっていると思うので、引き続きCSなどでの話し合いの場を作り、皆と一緒に活動する機会を増やすことで仲間意識が強くなると思う。
	学校地域支援本部など地域社会で学校を支えている人々に目を向け、生活科や道德の時間を中心に将来地域社会に生きる一員としての自覚を高	4	3	学校の役割の根本である「次代を創る人材を育てる」ことをコミュニティスクールとして常に意識してきた。その中でも日々の教育活動では「地域の次代を創る人材を育てる」ことを教職員にも意識させてきている。来年度コミュニティスクール3年目を迎える中で、人事異動等で	六小での小学校時代はといもしい時期だった、と子供自身が思ってくれることが、次につながる第一歩だと思う。地域の大人

	めさせる。		安谷はめるにしくもこの理念を惟美に継承していく必要がある。	としてそついつ意識でありたいと思う。	を一層強めていくために地域とともに知恵を出し合ってい
--	-------	--	-------------------------------	--------------------	----------------------------